

JVCKENWOOD

第15期 中間株主通信

2022.4.1 ▶ 2022.9.30

証券コード：6632



VISION 2023
変革と成長
2021 ▶ 2023

株式会社 JVCケンウッド

株主の皆さまへ

株主の皆さまには、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。



代表取締役 社長執行役員
最高経営責任者 (CEO)

江口 祥一郎

中期経営計画「VISION2023」では、「変革と成長」を基本戦略とし、抜本的な企業体質の強化を図り、さらなる成長の加速を目指して、進んでいくことを掲げました。

今後とも、「利益ある成長」と「グローバルでの社会的課題解決」を両輪とするサステナビリティ経営への取り組みを重点テーマとして深化させ、お客さまを含めたすべてのステークホルダーと深い信頼関係を築きながら、持続的な企業価値の向上とSDGsへの貢献を図ってまいります。

当社の企業ビジョンである「感動と安心を世界の人々へ」のもと、激変する事業環境の中で中長期的に企業価値を向上していくために、常に変化を先取りして未来を切り開く「たくましさ」と「したたかさ」を併せ持ったエクセレントカンパニーへ飛躍していきたいと思っております。

引き続き、株主の皆さまの変わらぬご支援を心よりお願い申し上げます。

▶ 中間期業績について

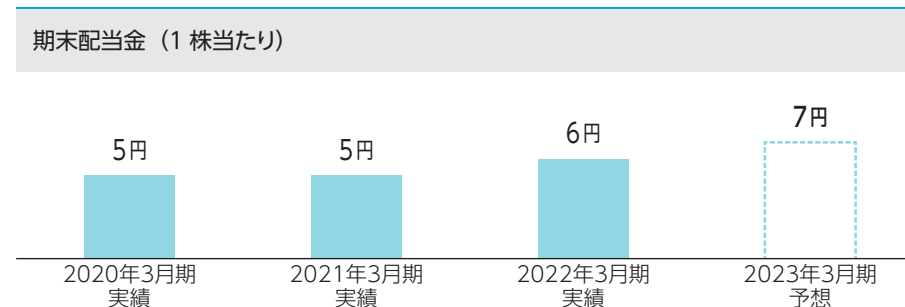
無線システム事業が想定以上に好調に推移したことなどから、全社で期初の想定を大幅に上回る実績となりました。

		2022年3月期 第2四半期累計	2023年3月期 第2四半期累計	前年比
		売上収益	1,244億円	1,581億円
	売上原価	922億円	1,145億円	+223億円
	売上総利益	322億円	436億円	+114億円
コア営業利益※		△8億円	59億円	+68億円
営業利益		21億円	58億円	+37億円
税引前利益		17億円	58億円	+41億円
親会社の所有者に帰属する四半期利益		△3億円	37億円	+39億円

※営業利益から、その他の収益、その他の費用、為替差損益など、主に一時的に発生する要因を控除したものの

▶ 配当について

第15期中間配当は、2022年10月31日開催の取締役会で配当を見送ることといたしました。なお、2023年3月期の通期業績予想の上方修正を受け、総還元性向の観点も踏まえて多様な株主還元策を検討しています。具体的な内容は、決定次第開示いたします。



FINANCIAL HIGHLIGHT

2023年3月期第2四半期(累計)業績

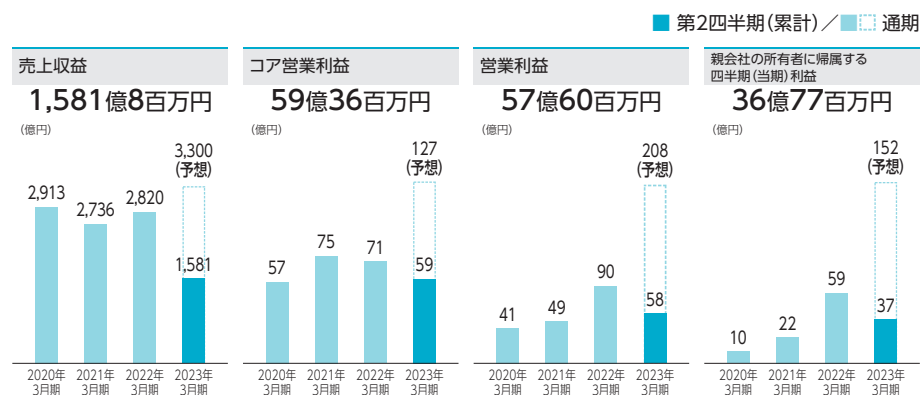
▶ 今期業績予想上方修正について

第3四半期連結会計期間以降も無線システム事業が期初計画を大きく上回る見込み、また、OEM事業の生産回復などにより全社の売上収益、コア営業利益は期初の想定を上回る見込みです。

2023年3月期通期連結業績予想の修正(2022年4月1日から2023年3月31日まで) (単位:百万円)

	売上収益	コア営業利益* (参考)	営業利益	税引前 利益	親会社の所有者に 帰属する当期利益	基本的1株当たり 当期利益
前回発表予想(A) (2022年4月27日発表)	300,000	9,500	8,000	7,000	4,000	24円47銭
今回修正予想(B) (2022年10月31日発表)	330,000	12,700	20,800	19,800	15,200	92円98銭
増減額(B-A)	+30,000	+3,200	+12,800	+12,800	+11,200	
増減率(%)	10.0	33.7	160.0	182.9	280.0	
(参考)前期実績 (2022年3月期)	282,088	7,144	9,054	8,515	5,873	35円89銭

※コア営業利益には、営業利益に含まれるその他の収益、その他の費用、為替差損益など、主に一時的に発生する要因を含みません。



▶ 連結財務諸表

■ 要約四半期連結財政状態計算書

第2四半期連結会計期間

科目	金額(百万円)
資産	
流動資産	
現金及び現金同等物	44,897
営業債権及びその他の債権	60,359
契約資産	2,520
棚卸資産	71,194
その他の流動資産	16,113
流動資産合計	195,083
非流動資産	
有形固定資産	59,831
のれん	2,323
無形資産	19,528
退職給付に係る資産	2,378
投資不動産	3,993
持分法で会計処理されている投資	5,081
繰延税金資産	6,345
その他の非流動資産	10,717
非流動資産合計	110,196
資産合計	305,280
負債及び資本	
負債	
流動負債	
営業債務及びその他の債務	56,005
契約負債	3,983
返金負債	5,448
借入金	16,091
その他の流動負債	32,681
流動負債合計	114,208
非流動負債	
借入金	49,781
退職給付に係る負債	21,968
繰延税金負債	4,332
その他の非流動負債	15,012
非流動負債合計	91,093
負債合計	205,301
資本	
資本金	13,645
資本剰余金	42,126
利益剰余金	16,014
自己株式	△140
その他の資本の構成要素	22,933
親会社の所有者に帰属する持分合計	94,581
非支配持分	5,397
資本合計	99,978
負債及び資本合計	305,280

■ 要約四半期連結累計期間損益計算書

第2四半期連結累計期間

科目	金額(百万円)
売上収益	158,108
売上原価	114,476
売上総利益	43,632
販売費及び一般管理費	37,695
営業利益	5,760
税引前四半期利益	5,784
法人所得税費用	1,816
四半期利益	3,968
四半期利益の帰属	
親会社の所有者	3,677
非支配持分	290

■ 要約四半期連結累計期間キャッシュ・フロー計算書

第2四半期連結累計期間

科目	金額(百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,037
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,851
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,798
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,803
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△3,809
現金及び現金同等物の期首残高	48,707
現金及び現金同等物の四半期末残高	44,897

■ 四半期連結累計期間セグメント別売上収益、コア営業利益または損失

第2四半期連結累計期間

セグメント	金額(百万円)
モビリティ&テレマティクスサービス分野	売上収益 95,978 コア営業利益 2,090
パブリックサービス分野	売上収益 32,760 コア営業利益 3,580
メディアサービス分野	売上収益 26,128 コア営業利益 215
その他	売上収益 3,240 コア営業利益 50
合計	売上収益 158,108 コア営業利益 5,936

損益為替レート

		第1四半期	第2四半期
当期	米ドル	約130円	約138円
	ユーロ	約138円	約139円
前期(参考)	米ドル	約110円	約110円
	ユーロ	約132円	約130円

VISION2023「変革と成長」

2021年5月に発表した中期経営計画「VISION2023」は、「変革と成長」を基本戦略とし、2023年度までの3年間で抜本的な企業体質の強化を図ること、そしてさらなる成長の加速を目指し、コロナ禍の閉塞感を打破して次のステップに進んでいくことを掲げました。具体的には構造改革による収益基盤の強化（「変革」）、新規商材・新規販売チャネルの拡大と新規事業の創造による成長事業の拡大（「成長」）、「利益ある成長」と「グローバルでの社会的課題解決」を両輪とした取り組み（「サステナビリティ経営／ESGの進化」）を進めています。



中期経営計画の1年前倒し達成の見込み

事業ポートフォリオの再定義による収益基盤の強化により、2023年3月期第2四半期連結累計期間は、前期比で大幅増益となり、第3四半期以降も引き続き事業が好調に推移する見込みであることに加え、固定資産譲渡益の計上もあり、期初の業績予想から上方修正した結果、「VISION2023」の最終年度における主要な目標数値を1年前倒しで達成する見込みです。

■ VISION2023 主要経営目標と2022年度見込みについて

	VISION2023 目標	2022年度 通期見込	
売上収益	3,200億円以上	3,300億円	○ 達成見込
コア営業利益	120億円以上	127億円	○ 達成見込
ROE	10%以上	16.4%	○ 達成見込
自己資本比率	30%以上	32.0%	○ 達成見込
D/Eレシオ	1.0以下	0.7	○ 達成見込

VISION2023 変革と成長

無線システム事業が成長ドライバーに

当社無線システム事業の強みと業務用無線の優位性

■ 当社の強み

1980年代から市場参入(海外)

40年以上の実績と信頼

高品質・高性能・顧客最適への
カスタマイズ対応

長期にわたる高い顧客支持

■ 業務用無線の優位性 — 需要拡大の要因 —

携帯電話、スマートフォンとは異なる優位性がある

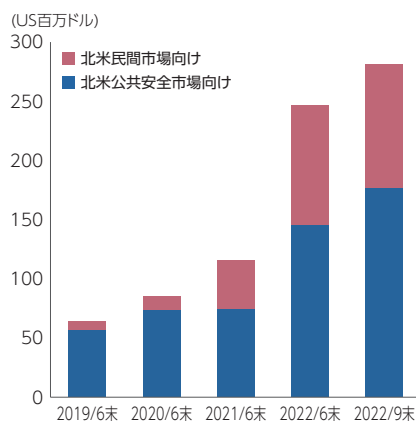
一対多数の即時通話	・ 多くの人に一言に指令、案内ができる
有事・災害時に強い	・ 中継機により広域な通信カバーエリアを確保
自営可能	・ 自前のインフラで確実な通信が可能
高品質・堅牢性	・ 高いレベルの試験を通じて品質を確保

当社無線システム事業の成長の背景

<背景>

1. 米国でのデジタル無線への切り替え需要が急拡大
2. 世界各国において、危機管理対応として無線システム需要が拡大
3. サプライチェーンでの早期対応による、安定的な製品供給

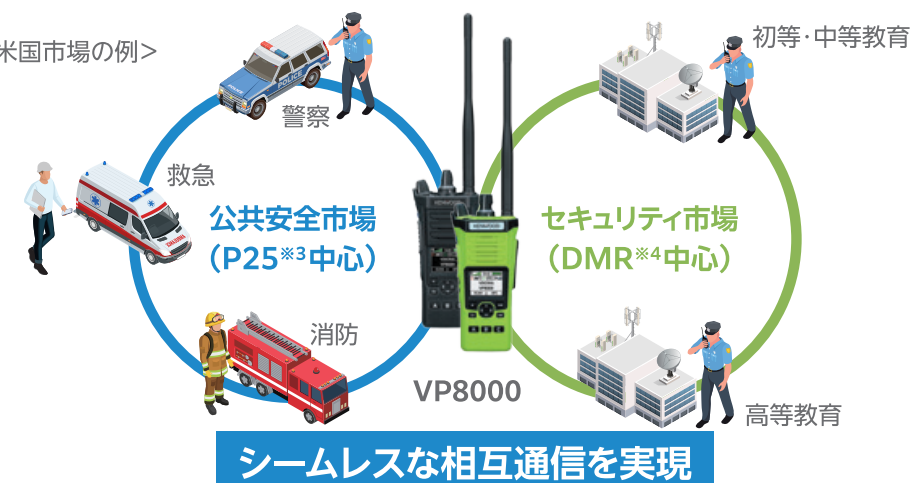
無線システム 受注残 推移 (米国市場)



高性能新製品VP8000の投入(2023年1月導入)

3つの周波数帯域^{*1}と2つのデジタル無線規格^{*2}を1台でカバーし、米国でのプレゼンス拡大につながるトライバンド対応無線機を導入します。本機は無線機1台で、緊急時に同一自治体内の警察・消防などと学校セキュリティとの相互通信が可能です。

<米国市場の例>



これにより、新規販路・新規案件を獲得することができ、北米公共安全市場での事業の拡大が加速しています。

なお、VP8000は、ミッション・クリティカルな業務において、堅牢性、信頼性、高音質を備えるとともに、高コントラストなマルチラインディスプレイの搭載と人間工学に基づいたデザインにより、優れた操作性を提供しており、国際的に権威のあるデザインアワード「iF DESIGN AWARD 2022」をプロダクト分野で受賞しています。

※1: VHF/UHFに加え、700/800MHzの周波数帯域にも対応

※2: P25とDMRという異なるデジタル無線規格に対応

※3: 米国の公共安全市場向けに開発されたデジタル無線規格

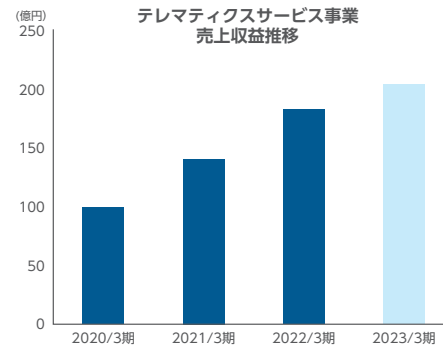
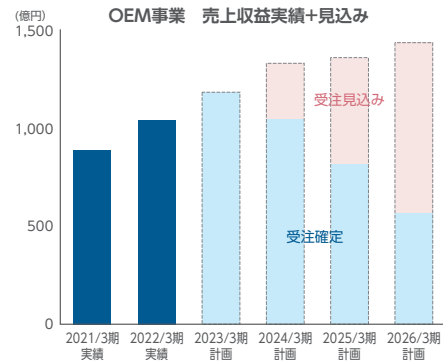
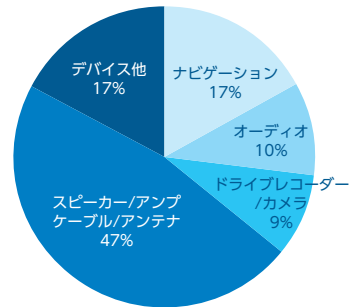
※4: デジタル無線の国際規格「Digital Mobile Radio」の略

VISION2023 変革と成長

OEM事業とテレマティクスサービス事業の成長

OEM事業は、用品では、大手日系自動車メーカーを中心に大型案件の受注獲得を進め、カーナビゲーションやディスプレイオーディオに加えて、ドライブレコーダーや車載カメラなど車載光学関連領域でも受注が拡大しています。純正は車載用のEMSやスピーカー、アンプ、アンテナ、ケーブル製品の開発にフォーカスし、日米欧中の自動車メーカーに提供しています。

OEM事業 カテゴリ別売上構成比率 (2022年度見直し)



テレマティクスサービス事業は、高機能ドライブレコーダーサービス事業のグローバル展開と、商品ラインアップやサービスの拡大により、さらなる事業拡大を図っていきます。

また、損害保険会社向けビジネスの進化や、車両データを活用したデータサービスビジネスへの展開といった、新たなテレマティクスサービスを提供していきます。

国内生産の回帰

当社グループはVISION2023で掲げた「ものづくりを通じた新たな価値の創造」を実現するため、生産拠点における自動化推進や国内生産回帰、サプライヤエコシステム構築などを軸に、地政学リスクへの対応、安定供給体制の確保を図っています。



JVCケンウッド長野



自動化製造ライン

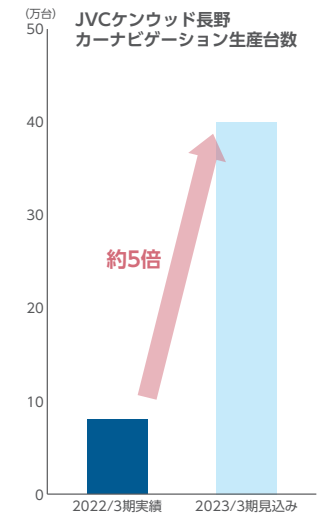
JVCケンウッド長野での取り組み

JVCケンウッド長野での生産量アップ

用品新規案件の生産開始もあり通期は前期比約5倍の生産台数を見込む。

JVCケンウッド長野の国内部品調達を強化

- ・国内取引先との戦略的パートナーシップの提携を推進(機構部材)
- ・ドル建て取引引きから円貨取引引きへ変更(半導体部品)
- ・在庫圧縮と供給リードタイムの短縮で総原価を低減



VISION2023 変革と成長

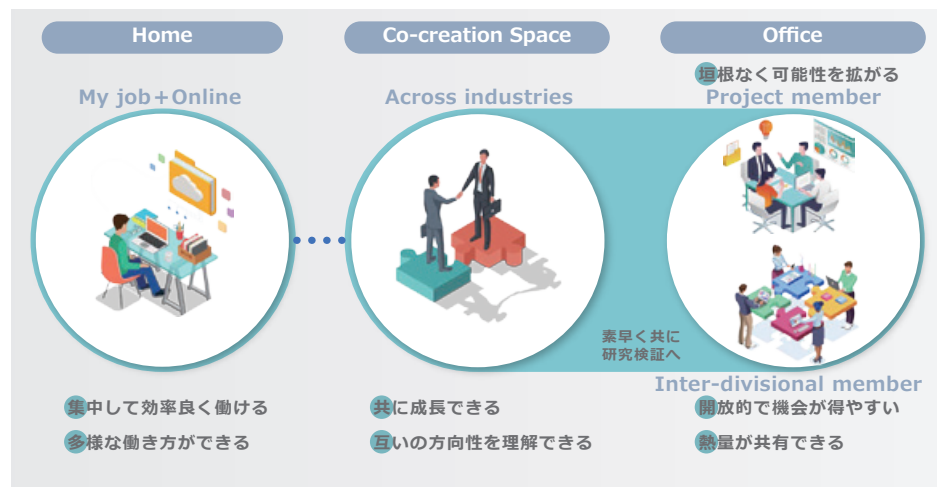
イノベーション創造に向けた環境づくりと働き方改革

価値創造の拠点「Value Creation Square (仮称)」を創設

当社は、中長期的な企業価値向上に向けた取り組みの一環として、価値創造の拠点「Value Creation Square (仮称)」を創設します。技術部門と本社コーポレート部門および『未来創造研究所』との連携強化により、メガトレンドに対応した技術開発を強化するとともにオフィス環境の整備により、さらなる働き方改革を推進し、新たな価値創造を実現していきます。



<横浜本社地区完成予想図(2024年夏完成予定)>



働く環境と場所が多様化しハイブリッドワークを実現

新たな中期経営計画策定について (VISION2025)

当社は、中期経営計画「VISION2023」の最終年度に設定した主要な経営目標(KPI: Key Performance Indicator)を2022年度に前倒しで達成可能な見込みとなったこと、また、急激な円安の進行、地政学的リスクの増大、サプライチェーンの変化など、当社を取り巻く事業環境が著しく変化していることを踏まえて、2025年度を最終年度とする新たな中期経営計画「VISION2025」を策定することとしました。

「VISION2025」は、今年度業績の最終的な見極めと各種施策の進捗状況などを勘案し、事業ポートフォリオ、キャッシュ・フロー・アロケーション、株主還元策などを主に見直した上で今年度終了後を目途に発表する予定です。

中期経営計画「VISION2023」
最終年度の主要な経営目標
→2022年度に前倒しで達成見込み

当社を取り巻く事業環境激変

- ▶ 円安の急激な進行
- ▶ 地政学的リスクの増大
- ▶ サプライチェーンの変化

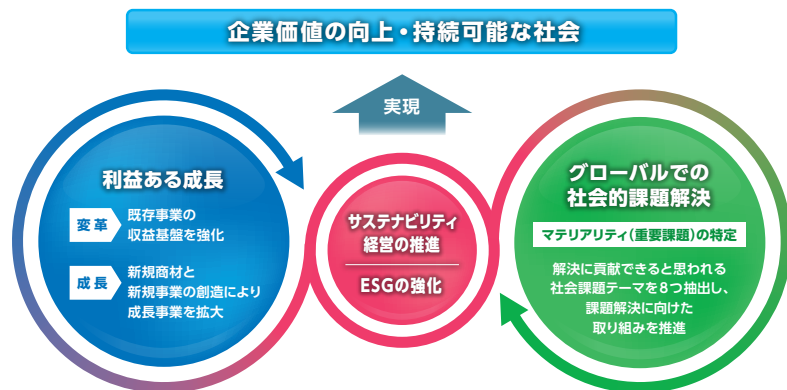
事業ポートフォリオ、キャッシュ・フロー・アロケーション、株主還元策などを見直し、2025年度を最終年度とする新たな中期経営計画「VISION2025」を策定し、今年度終了後を目途に発表予定

サステナビリティの取り組み

JVCケンウッドグループのサステナビリティ

「利益ある成長」と「グローバルでの社会的課題解決」を両輪とするサステナビリティ経営

中期経営計画「VISION2023」では、「利益ある成長」と「グローバルでの社会的課題解決」を両輪とするサステナビリティ経営の推進を重点テーマの一つとして設定しました。サステナビリティ経営とESGの強化を経営の土台とし、Society 5.0を通じた持続可能な開発目標(SDGs)達成への貢献を目指しています。



環境負荷低減への取り組み

当社マテリアリティ、KPIに連動した気候変動への対応として、当社グループの事業活動によるCO₂排出量削減率(2025年度までに2019年度比25.2%削減)を目標指標として設定し、これを元に「サステナビリティ・リンク・ローン」による資金調達を実施しました。

※詳細はこちら

<https://www.jvckenwood.com/jp/press/2022/press-220930-01.html>



■ 環境基本方針「JKグリーン2025」策定(2021年)→環境負荷低減への取り組み継続

＜環境4項目＞	気候変動への対応	資源の有効活用
	環境保全・管理	生物多様性の保全

外部評価を取り入れたESGの強化

当社は、外部の評価指標を取り入れ、ESGの強化によって持続的な企業価値向上を図っています。



環境配慮型製品の展開

他社との協業にも積極的に取り組んでいます。

例として、日産自動車株式会社およびフォーアールエナジー株式会社と共同開発している、電気自動車「日産リーフ」の使用済み充電バッテリーをポータブル電源として再生利用するため、当社技術と知見を生かし、安全性、使用済みバッテリーの再利用に最適化した設計と製品開発を担います。美しい自然環境を未来に残すため、電気自動車の再生バッテリーを活用し、低炭素社会・サステナブルな社会の実現に向け、取り組んでいきます。

再生バッテリーを利用したポータブル電源の開発



Topics

KENWOOD

前後撮影対応
2カメラドライブレコーダー
「DRV-MR870」
(2022年10月発売)



フロント・リアカメラともにF1.6の明るいレンズと、約500万画素のCMOSセンサー「STARVIS™」*を搭載し、暗い環境でもノイズの少ない高感度録画と、フルハイビジョンの約1.8倍の解像度となるWQHDでの高画質録画を実現する前後撮影対応2カメラドライブレコーダーのフラッグシップモデルです。あおり運転を自動で検知する「AIセンシング」をはじめとする各種運転支援機能も搭載しています。

※「STARVIS™」はソニー株式会社の登録商標です。

Victor

完全ワイヤレスイヤホン
「HA-FX150T」
(2022年11月発売)



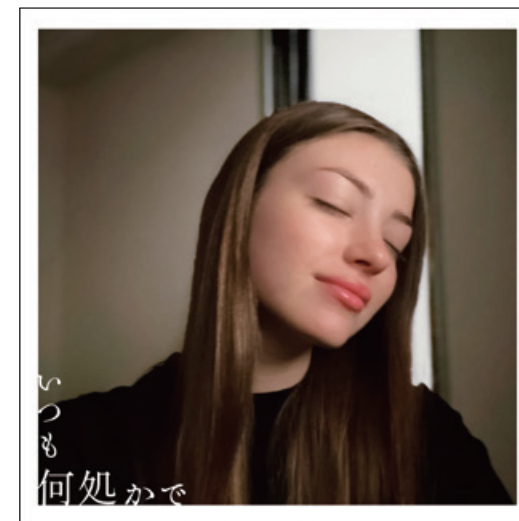
Tuned by
VICTOR STUDIO

“音づくりのプロ集団”である「ビクタースタジオ」のエンジニアが音質を監修し、“プロが認めた音”を楽しめる完全ワイヤレスイヤホンの新モデルです。新ドライバーユニットとメタルプレーティングチャンバーの採用により、繊細で伸びのあるクリアな表現と、広い音場の高音質サウンドが楽しめます。

また、周囲の騒音を抑制し、音楽のディテールをより楽しめるよう、ノイズキャンセリング機能も搭載しています。

VICTOR ENTERTAINMENT

桑田佳祐ベストアルバム
「いつも何処かで」
(2022年11月発売)



「いつも何処かで」

ソロ活動35年間の歩みを凝縮し、今この時代にこそ聴いてほしい、そして未来への希望と共に、これからも“いつも何処かで”歌い継がれていくであろう楽曲たちを集めた2枚組35曲入り

会社概要

商号

株式会社JVCケンウッド (英文名: JVCKENWOOD Corporation)

事業内容

- ・モビリティ&テレマティクスサービス分野(カーナビゲーションシステムやドライブレコーダーシステム、テレマティクスサービス等)
- ・パブリックサービス分野(業務用無線システム、セキュリティシステム、医用画像表示モニター等)
- ・メディアサービス分野(ヘッドホンやイヤホン、プロジェクター、人気のアーティストを抱えるエンタテインメント、ポータブル電源等)
上記の事業等を営むこと、ならびにこれに相当する事業を営む会社の株式または持分を保有することによる当該会社の事業活動の管理

代表者

代表取締役 社長執行役員 最高経営責任者 (CEO) 江口 祥一郎

設立

2008年10月1日

資本金

136.5億円*

従業員数(連結)

16,585名*

決算日

3月31日

本社所在地

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町三丁目12番地

※2022年3月31日現在



本社・横浜事業所

役員

岩田 眞二郎	社外取締役 取締役会議長
江口 祥一郎	代表取締役 社長執行役員 最高経営責任者 (CEO)
野村 昌雄	代表取締役 専務執行役員 モビリティ&テレマティクスサービス分野責任者
宮本 昌俊	代表取締役 専務執行役員 最高財務責任者 (CFO)
鈴木 昭	取締役 専務執行役員 パブリックサービス分野責任者
栗原 直一	取締役 常務執行役員 コーポレート部門担当
園田 剛男	取締役 常務執行役員 最高技術責任者 (CTO)、最高情報セキュリティ責任者 (CISO)
浜崎 祐司	社外取締役
鬼塚 ひろみ	社外取締役
今井 正樹	常勤監査役
齊藤 勝美	社外監査役 (非常勤)
栗原 克己	社外監査役 (非常勤)
藤岡 哲哉	社外監査役 (非常勤)
高田 伸一	常務執行役員 モビリティ&テレマティクスサービス分野 アフターマーケット事業部長
寺田 明彦	常務執行役員 中国総代表
林 和喜	執行役員 経営企画部長
村岡 治	執行役員 米州総支配人
関谷 直樹	執行役員 国内マーケティング本部長
岩崎 初彦	執行役員 メディアサービス分野責任者
佐藤 勝也	執行役員 パブリックサービス分野 無線システム事業部長
鎌田 浩彰	執行役員 モビリティ&テレマティクスサービス分野 テレマティクスサービス事業部長

詳細は当社ウェブサイト「経営体制」のページをご覧ください。
(<https://www.jvckenwood.com/jp/corporate/management.html>)



STOCK INFORMATION

株式関連情報

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 および特別口座 三井住友信託銀行株式会社
 の口座管理機関

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎0120-782-031
 9:00から17:00まで
 (土・日・祝日を除く)

お問い合わせ先 株式会社JVCKENWOOD
 企業コミュニケーション部 広報・IRグループ
 住所：〒221-0022
 神奈川県横浜市神奈川区守屋町
 三丁目12番地
 電話：045-444-5232 (直通)
 Eメール：prir@jvckenwood.com
 ウェブサイト：
<https://www.jvckenwood.com>



この冊子は環境保全のため、植物油インキとFSC®認証紙を使用しています。
 また、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

株主さま向け アンケート

よりよいIR活動のために 皆さまの声を お聞かせください

当社では、株主の皆さまの声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。
 お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。(所要時間は5分程度です)

- ①下記URLにアクセス
- ②アクセスコード入力後にアンケートサイトが表示

<https://www.e-kabunushi.com>
 アクセスコード

……以下の方法でもアンケートにアクセスできます……

検索窓から

kabu@wjm.jp ←こちらへ空メールを送信
 「件名」「本文」は無記入。
 アンケートのURLが直ちに自動返信されます。

スマートフォンから
 カメラ機能でQRコード読み取り→
 QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



本アンケートは、株式会社リンクコーポレートコミュニケーションズの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
<https://www.link-cc.co.jp>

アンケートのお問い合わせ

「e-株主リサーチ事務局」
 MAIL: info@e-kabunushi.com

(2108)

【アンケート実施期間&抽選プレゼント】

期間：2022年12月2日(金)～2023年1月31日(火)

株主さま向けアンケートにご回答いただいた当社株主さまの中から抽選で以下をプレゼントします。

1. ビクターエンタテインメントが開催予定の音楽フェスにご招待 ペアチケット15組30名様
2. Victor完全ワイヤレスイヤホン「HA-FX150T」(色：ブロンズ) 10名様
3. Victorワイヤレスステレオヘッドセット「HA-NP35T」(色：ネイビー) 10名様



音楽フェス (イメージ)



「HA-FX150T」



「HA-NP35T」

詳しくは、以下の当社ウェブサイト「株主さまアンケートページ」をご確認ください。

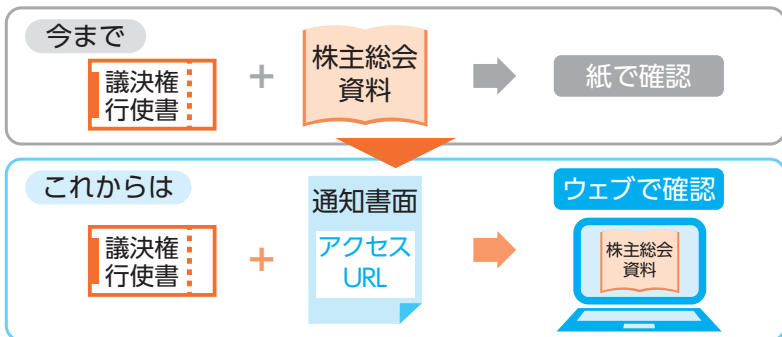
<https://www.jvckenwood.com/jp/ir/investor/survey.html>



注意事項

- ※当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。
- ※プレゼントの写真はイメージです。また、都合により内容が変更となる場合がございます。
- ※ご回答いただいた内容は、統計情報およびプレゼントの発送のほか、株主さま向けの活動充実のためにも使用させていただく場合がございます。

会社法改正により 株主総会資料が原則ウェブ化されます



主な変更点

- ・ウェブサイトへのアクセス方法等を記載した招集通知(通知書面)をお送りします。
- ・株主総会資料の全文はウェブサイトアクセスすることで確認できます。
※議決権行使書は原則として、今まで通りお送りします。

開始時期

2023年3月以降の株主総会より

※ただし、当社は2023年6月に開催予定の第15回定時株主総会まではこれまでどおり株主総会資料一式を書面にて発送しますので2023年3月末までは本お手続きは不要です。

本制度について詳しくはこちら

<https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/kaisyahou>



●株主総会資料とは、株主総会参考書類、事業報告、監査報告、計算書類、連結計算書類を指します。●議決権を有する株主さまを対象に通知書面をお送りします。

インターネットのご利用が 困難な株主さまへ

**2022年9月1日以降、書面で受領するための手続きが可能です
(書面交付請求)**

■「書面交付請求」とは？

お申し出いただいた株主さまには株主総会資料を書面でお送りします。なお、書面交付請求を行わなくても、URL等を記載した通知書面はお送りします。

■お手続き方法は？

証券会社にお申し出の場合は、保有銘柄の口座を開設している証券会社へお問い合わせください。株主名簿管理人にお申し出の場合は、書面での受領を希望される銘柄ごとに申出書面のご提出が必要です。

お問い合わせ先

三井住友信託銀行 証券代行部

0120-533-600 受付時間 9:00~17:00
(土・日・祝・12/31~1/3 休)

ぜひFAQ(Q&A)もご利用ください。

https://faq-agency.smtb.jp/category/show/414?site_domain=personal



当社ウェブサイト、統合レポートのご紹介

当社ウェブサイトでは、当社グループの会社情報、事業概要、ブランド戦略、IR情報、サステナビリティ、採用情報などがご覧いただけます。

また、JVCケンウッド統合レポートでは、2021年度(2022年3月期)までの当社グループの強みや価値創造に向けたプロセスなどを振り返るとともに中期経営計画「VISION2023」で当社が目指す姿や各事業分野の戦略、持続的社會への貢献に向けた取り組みをご説明しています。



当社
ウェブサイト

ウェブサイトは
こちら



<https://www.jvckenwood.com>

JVCケンウッド
統合レポート



<https://www.jvckenwood.com/jp/ir/library/annual.html>